

全自動水やりシステム

土の湿度測定 天気予報とも連動

都市部の気温が上昇するヒートアイランド現象の対策として普及してきた屋上緑化の給水作業を、天気に応じて自動で行う独自のシステムを、大阪と長崎のベンチャー企業が共同で開発し、販売を始めた。土の湿度や、天気予報との連動で必要な時だけ給水するのが特色だ。タイマーで決まった時間に給水する従来の装置に比べ、節水などの効果を見込めるという。

開発したのは、情報技術(IT)関連会社のエビア(大阪市)と、屋上緑化の施工を手がけるマサキ・エンヴェック(長崎市)。装置は、土の湿度を測るセンサー、給水パイプの制

屋上緑化、6割節水 大阪のベンチャーなど開発・販売

インターネットで日本気象協会の天気予報のデータを取得する機能があり、3時間後に雨が降る予報が出ていると、水が出ない仕組み。

両社は、ロボットの共同開発や共同受注に取り組む中小企業グループ「ROOBO」(ローボ)の会員で、大阪市の補助を受けて昨年、今年3月に実験したところ、使用水量が従来の40%程度に減ったという。さらに、余分な水を与えないため根腐れも減り、草木が育つ効果も確認できた。

1セットの販売価格は造園費用を除いて約100万円。1号機は京都府精華町のオフィスビルに設置された。

御機器などからなる。湿度が50%を下回ると給水するが、制御機器にはインタ